

金融の力で世界の課題に挑む

お金の流れが変われば、世界を変えることができる。

インパクト・インベストメントや、クラスター爆弾禁止条約への対応を通して、

金融機関だからこそできる取組みについて、シンクタンク・ソフィアバンク副代表で新しい社会の創造に

取り組む藤沢久美氏と、大和証券グループ本社 取締役会長(当時 執行役社長)の鈴木茂晴が対談しました。

(開催日：2011年2月15日)



金融は社会インフラ 自らの役割を果たすことが社会への貢献

藤沢氏 今年ダボス会議に行きましたが、CSRという言葉はすでに古く、グローバル・シチズンシップとして、本業を通じて社会の問題をどう解決するのかを考える時代になっていると言われていました。金融という分野で、本業を通じてどんなことをなし得るとお考えでしょうか。

鈴木 CSRは特別なものではなく、会社の業務を通じて社会に貢献していくことだということを、我々はずっと基本としてきました。企業は公の存在であり、社会のなかで果たすべき役割があります。特に金融は社会インフラであり、偏在している資金を、必要とする企業や国へとつなぐ役割を果たすのが証券会社です。自らを律しながら、役割をきちんと果たすことで社会に貢献していくことは、企業の存在価値そのものであると思います。

藤沢氏 今、世界で起きている問題を改善するために、証券会社には何ができるのでしょうか。

鈴木 社会貢献というと、寄付をするようなイメージがありますが、それだけではありません。今我々が取り組んでいるインパクト・インベストメントは、お客様にとっては利益を追求しながら社会に貢献でき、当社にも利益をもたらします。社会貢献と両立するビジネスを広げていくことこそが企業の果たす役割だと考えています。

藤沢氏 大和マイクロファイナンス・ファンドのお話を聞いて、これは素晴らしいと思って、昨日ツイッターでつぶやいてみました。しかも、店頭やインターネット経由で1,000円から申し込むことができると。そうしたら「こういう商品をつくってくださる会社があることはすごくいいことだ」とか、「応援したい」などの声があがってきました。

インパクト・インベストメントは 社員のための商品でもある

藤沢氏 効率良く利益を上げることだけを考えれば、BRICs[※]ファンドをつくるほうがいいわけで、あえて社会性の強いものをつくって販売するのは、普通の金融商品とは力点が違うのでしょうか。

鈴木 これはある意味、社員のための商品でもあると考えています。我々は金融という社会の基盤を支える重要な仕事をしていますが、日々営業の現場にいと、自分の仕事が生かされていることが実感しにくいのです。

藤沢氏 インパクト・インベストメント商品は、販売する営業員も、購入するお客様も、商品の意義がわかりやすいですね。

鈴木 社員は生活のためだけに働いているわけではなく、意義のある仕事をしたいと思っているはずで。お客様の立場で考えれば、たとえば寄付をしたとしても、そのお金がどこでどう使われたのかわからないことがあります。しかし、我々の商品は、必要なお金がお金が使われることがはっきりとわかる。もちろん金融商品ですからリスクもありますが、寄付ではなく投資だからリターンも期待できます。当社にとっても、社員にとっても、お客様にとっても、そして資金を受ける側にとっても利益が大きい、ハッピーな商品だと私は思っています。

藤沢氏 インパクト・インベストメントのような商品は大きな利益が出るわけではないと思いますから、一歩踏み出すのが難しいのでは、と思いますが。

鈴木 企業は利益を上げなければその存在意義をなくしてしまいます。しかしながら、利益だけを追求するのではなく、さまざまな社会的意義のある事業を手がけるべきだと思っています。社会インフラとしての証券会社の存在意義や、社員の働きがいになるようなものとして、今後もこういった社会性の強い商品に力を入れていきます。

藤沢氏 ますますインパクト・インベストメント商品を増やしていられるお考えですね。

鈴木 そうです。マイクロファイナンス関連商品は、貧困問題に関心を持っていた現場の社員が企画して商品化しました。良いことを企画すれば、商品化できるという事例にもなったわけで、こういう前例があると、社員も一生懸命仕事をします。そういう意味での好循環ができています。

藤沢氏 社員からの反応はどうですか。

鈴木 営業部門では、社員の多くが社会に役立つ仕事ができていると感じているのではないのでしょうか。

藤沢氏 証券会社の営業の方がそういう意識を持って働いているのが素晴らしいですね。

[※]BRICs: ブラジル、ロシア、インド、中国の頭文字を合わせた4か国の総称

世界に冠たる国民性を持つ日本人に インパクト・インベストメントはマッチする

藤沢氏 ワクチン債を購入されたお客様のなかにはお医者様が多いと伺いましたが、インパクト・インベストメント商品を出すことで、お客様のすそ野が広がるのではないのでしょうか。

鈴木 日本人は世界に冠たる心の優しさを持った国民性があると私は思っています。インパクト・インベストメントは、投資で経済的リターンを求めながら、社会的リターンも追求するわけですから、日本人に非常にマッチした商品だと思います。これまで投資に縁のなかった人たちに知ってもらうことで、もっと広げていけるのではないかと思います。



シンクタンク・ソフィアバンク 副代表
社会起業家フォーラム 副代表
法政大学ビジネススクール 客員教授

藤沢 久美氏

投資信託会社勤務を経て、1996年日本初の投資信託評価会社を設立。2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。セミナーやテレビ、雑誌など幅広いメディアを通じて新しい社会創造に取り組んでいる。

藤沢氏 日本人のいいところを信じて商品をつくっていらっしゃるわけですね。社会性のある商品をつくることは、社員に対する良いメッセージでもあり、日本人に対するメッセージ、あるいは海外に向けて日本の良さを伝えるメッセージにもなりますね。大和証券というブランドを高めることにもつながっていると思います。

好ましくない企業に投資しないことで 社会的な責任を果たす

藤沢氏 2010年8月「オスロ条約」の発効に伴って、クラスター爆弾製造企業の発行する有価証券をアクティブ・ファンドに組み入れない、という方針が策定されました。最初にこの話を聞いたときには驚きましたが、素晴らしいことですね。

鈴木 世の中が認めていない、あるいは禁止しているものに携わっている企業に対して、我々は投資することはできません。そういった企業は引受時の審査の段階で外すようにしていますし営業員がお客様に奨めることがないような仕組みをつくっています。

藤沢氏 それはすごいですね。ある意味、日本は世界で一番金融資産を持っている国ですから、そういう国から社会的によろしくない企業にお金が流れないような調整弁をつくっていらっしゃることは、世界に対する確固たるメッセージになると思います。そういったところも、大和証券グループは先進的ですね。

鈴木 社会的な責任をきちんと考える企業は増えてきていると思いますが、我々はその先端を走る一社という自負はあります。

藤沢氏 日本の、特に金融や証券の世界では、誰かが歩いた道でなければ歩かない、という傾向がありますが、その一番先を歩いていらっしゃるの素晴らしいですね。社内の反応はいかがでしたか。会社で方針転換をするときは、中間管理職の反発があると一般的に言われていますが。

鈴木 法律やルールに反していなくても、社会通念上おかしければビジネスとして成立しないと、私はずっと言い続けてきました。そういう思想は浸透しているので、反発はないだろうと思いますし、そうであってほしいと思います。特にクラスター爆弾製造企業への投資方針策定の際には、部長クラスがそうあるべき、と積極的に受け入れてくれました。

社員が力を発揮できる場を整え 雰囲気醸成するのが経営の役割

藤沢氏 女性営業員が増えているそうですね。

鈴木 個人投資家のお客様には、きめ細やかな対応や、きちんとした説明が必要ですが、そういった場面では女性が力を発揮してくれています。証券会社は男社会、というイメージがあると思いますが、今はまったく違います。

藤沢氏 女性の数が増えているというのは、意識的にですか、それとも結果的に、ということですか。

鈴木 両方ですね。意識的に働きやすい環境をつくったことは確かですが、それに応えて活躍してくれたので、人数的にもどんどん増えたということです。

藤沢氏 働きやすい環境を整えようと思われたのは、何か理由があったのですか。

鈴木 私が会社に入った頃に、嫌だなと思ったことがありました。ひとつはオフィスが雑然としていたことです。店頭はともかく、バックオフィスがひどかったので、私が社長に就任した際、全店リニューアルを行いました。トイレも男性用の方が広がったので、逆にしました。

藤沢氏 女性にとってトイレは重要です。そんなところをわかってくださる方がトップにいらっしゃると、女性社員は幸せですね。

鈴木 もうひとつ私が嫌だなと思っていたのは、帰るのが何時になるのかわからないこと。だから19時前退社を徹底しました。女性は特に何時に帰れるかわからないと働きにくいですね。

藤沢氏 ご自身の体験を通して改善すべき点を改善してこられたのですね。リーダーのお仕事は、場づくり、チャンスづくりをさまざまな角度から考えることでもあるのですね。

鈴木 当社は就職人気ランキングも高くなりましたし、優秀な人が多く集まっていますから、きちんとした職場を提供すればすごいことをやってくれる。そういう職場や雰囲気をつくり出すのが、上に立つ者の役割だろうと思います。

藤沢氏 社員が仕事に喜びを感じることを、ずっと大切にされてきたのだと、お話を伺って感じました。だからこそ、社会に対してインパクトの強い働きができるのだろうと思います。



大和証券グループ本社 取締役会長 鈴木 茂晴

グローバル・コンパクトの原則は 特別なことではない

藤沢氏 最後に、国連グローバル・コンパクトに署名した企業としてのコミットメントを伺いたいと思います。

鈴木 グローバル・コンパクトの原則は、企業経営を考える上で当然考慮すべきことだと思います。当社の理念とも相違するところなく、また社会的インパクトを考慮した事業活動を行う上で有用です。

藤沢氏 署名しない理由はないと。

鈴木 わざわざ署名しなくても良い世の中にしていかねばならないと思います。日本人のようなメンタルを持っていれば、十分可能であると考えます。

藤沢氏 本日は非常に感銘を受けました。ありがとうございました。